

災害実働訓練評価委員会用記入シート作成にあたって (災害救護訓練と PDCA サイクル)

1. はじめに

毎年9月になると市町村、あるいは県単位の防災訓練が行われます。そして病院では年2回以上法令（消防法）で決められた訓練が実施されます。訓練の成果をフィードバックするにはどのようにしたらよいのでしょうか。

事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つにPDCAサイクル（plan-do-check-act cycle）があります。Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善することです。訓練が分刻みに進行し、シナリオ通りに終了することが当たり前と思われた時代もありました。しかし最近このPDCAサイクルの考え方に則り訓練を行う機会が増えてきました。この時の“評価”基準として適当なものがないかと県医師会災害医療対策委員会で考え工夫したのが添付されたチェックシートです。評価基準は4段階“4：模範的 3：標準的 2：改善を要する 1：至急改善を要する”としてみました。訓練とは改善点を発見するためのチャンスです。もちろん各地域により医療体制は異なります。みなさんの地域に即したチェックシートを作成するためのたたき台として活用していただければ幸いです。

2. 災害訓練のタイプ

訓練には机上訓練と実働訓練があります。この二つの訓練を組み合わせることで有効な訓練となります。実働訓練には院外で活動する（1）医療救護班院外訓練と病院内で傷病者を受け入れる（2）院内訓練があります。医療救護班院外訓練は訓練会場へ出動して行う訓練です。多くは県市町村、広域消防などと合同して行う訓練で、他機関との連携を学ぶことができます。しかし大規模訓練であり時間の制約があり目的意識がないと参加したことだけで訓練が終了することになるおそれがあります。そこで少しでも訓練を充実させるために、被害想定は同じ状況として（3）院内訓練と医療救護班院外訓練を同期させることでよりリアルに災害時の状況に近づけ訓練することが可能となります。

最近、各地で行われている災害訓練は、災害対策本部医務班の立ち上げと医療救護班院外訓練をリンクさせるより実際的な方式です。しかしこれらもシナリオに沿って進行する訓練ですのでその限界があります。

3. 災害訓練の設定

訓練内容を事前にどれだけ開示しておくかによって3つのタイプの訓練が設

定されます。(1) 設定確定型、(2) 状況付与型、(3) 抜き打ち型です。

設定確定型では訓練参加者に進行・設定が知らされ、何をするかが決められています。訓練の規模が大きくなると調整が困難になるため進行を何時何分と分刻みで決めておかなければなりません。この訓練の目的は、それまでに行った訓練の成果を披露するための訓練であり、改善点を見出すための訓練ではありません。当日までに事前訓練(練習)をどのように行うかが要点です。この訓練がある程度周知された次の段階として、状況付与型訓練設定があります。参加者に災害のタイプ・状況を付与し、その後について参加者に考え行動してもらい、より実践的内容となります。参加者のモチベーションと自ら考える意識が必要となる訓練です。

災害時医療対応マニュアルなどが整備されつつあり、災害時の対応が構築されればこのタイプの訓練が次の段階としての目標となるでしょう。

4. 参考資料*

訓練をスムーズに行うためのいくつかのポイント

1. 事前勉強会の実施；災害の概念、トリアージの意味、トリアージタグの記入方法の勉強会を事前に行うことが大切です。従来のタグでは、再現性のある客観的なトリアージが不可能です。START法に準拠した“ほ・こ・と・て”タグの使用が使いやすいはずです。
2. 実際に使われる(であろう)場所で実施する；災害時に開設される救護所で訓練することにより、その場所に到達する安全な道筋や薬剤の保管場所、器材の種類を確認することができます。
3. 中心人物を決める；訓練には各部署の中心となる人物を入れます。実際の災害時にも中心的役割を担う責任者として自覚を持つこととなります。
4. 災害時に着用する帽子、ヘルメット、役割の入ったビブスを装着し通信機器を実際に操作する。
5. 安全第一；患者搬送訓練などで担架、ストレッチャーの使い方に慣れておく必要があります。また作業時に指を傷つけたりする事もありますので軍手などを使用することも必要です。
6. 訓練後の評価を行う；トリアージはできたか？足りない医療器材を工夫してどのように活用したか？重症患者から順番に治療できたか？傷病者数に応じて柔軟に対応できたか？・・・を評価する。トリアージの正答率、参加者の満足度は評価の対象としては大きいものではありません。そもそもトリアージ結果には従うことがルールです。